

山口放送

活動名	「情報の伝え方・接し方」を学ぶ
実施期間	令和 7 年 11 月～令和 8 年 1 月
実施回数	学校訪問 6 回

【実施学校】 宇部市立二俣瀬小学校、周南市立沼城小学校、周南市立勝間小学校

【事業実施の成果・課題】

- ・宇部市立二俣瀬小学校では、学校側が進める総合的学習（ふるさと学習）との紐づけが実現し、学習効果が高まった。児童たちの興味関心も高かった。
- ・特に、3・4年生を対象とした授業では、言葉（単語）のチョイスに苦勞。授業中、何度も、「○○って意味わかる？」と確認しながら進めた。
- ・周南市の2校では、ニュースが放送されるまでに様々な場面で確認が行われていることに驚いていた。

【事業担当者・講師の感想】

- ・児童たちは、デジタル機器やソフトの操作スキルが著しく高い一方で、インターネット情報の取り扱いや映像権利等への意識・認識はまだまだ幼く、危うい面も多々。小学校授業支援のような活動の必要性を強く感じた。
- ・「誰に・何を・何のために」のキーワードを意識できるようになった子どもたちは、伝えたいことの取捨選択をしたり、その伝え方を工夫したりして、オリジナルのスライドショーを仕上げてくれた。目の前の相手を少し意識するだけで、発表が楽しくなることも学んでくれた。

【教諭・子どもたち・視聴者などの感想】

<宇部市立二俣瀬小学校 子どもたちの感想>

- ・みんなに間違った情報が伝わらないよう、自分たちで取材したりした。
- ・一番伝えたい文字を大きくしたり、色を変えたりして、情報を伝える工夫をした。

<宇部市立二俣瀬小学校 中谷校長の感想>

- ・この「メディアリテラシー」は、情報を発信する側の根幹をなす資質・能力だと感じた。
- ・山口放送の皆さんの指導により、「誰に・何を・何のために」伝えるのかを考える中で、子どもたちの意識は確実に変わった。

＜周南市立沼城小学校 久保田校長の感想＞

- ・取材経験のあるアナウンサーから直接お話を聞けて、これからニュースを見る目が変わると思う。

＜周南市立勝間小学校 河内校長の感想＞

- ・情報の教科書だけでは伝えきれないことがあったが、本物のアナウンサーが、ニュースができるまでを詳しく教えていただき、子どもたちもしっかり受け止められたのではないかと思う。